



卒業生によるボランティア活動グループわ会報

情報ぎやらり

第48号

発行日 2009年10月27日
 編集 グループ“わ”広報部
 発行者 加藤 勇治
 発行元 NPO法人社会還元センター
 グループ“わ”
 Tel ; 078-743-8101 Fax ; 078-743-3830
 Eメール wa_gallery@wa-net.jp
<http://www.wa-net.jp/index.shtml>

区会活性化の取組み本格化！

区会活性化推進委員会

委員長 加藤 勇治（美工 10期）

“一人でも多くボランティア活動に参加し共に汗を流せる体制づくり”にわ挙げて取り組んでいます。特にわの原点というべき「地域に密着したボランティア活動」を担う区会の活性化は喫緊の課題です。本年度は区会活性化推進委員会を編成、区会運営の実態にメスをいれ、活性化推進に本格的に取り組んでいます。

1. 区会活性化推進委員会の編成と取組み経緯

◦本部役員（10名）と全区会長（9名）から成る「区会活性化推進委員会」を6月に発足させ、6月から毎月運営委員会の後、活性化推進に向け集中審議を重ねてきました。

（1）第1回推進委員会（6月26日）

◦委員会の構成メンバーの承認と運営方法を協議。昨年度本部で纏められた「区会活性化対策（大綱）」に沿ってその具体化を推進する委員会の役割を再確認したが、理想に走りすぎないで、地についた実態改善策を探っていく基本姿勢を申し合わせた。

◦区会長からの区会運営の現状を報告いただき、区会運営の実態と課題を協議。

（2）第2回推進委員会（7月17日）

◦前回に引き続き区会運営の実態と課題についてフリートークし、全委員で区会運営の現状認識につとめた。

◦区会運営の問題点の洗い出しと合わせ、打開策についても集中審議。

（3）第3回推進委員会（8月25日）

◦前2回の委員会で討議した「区会運営の問題点」を整理し、打開策について集中審議した。「区会運営の問題点と課題」「区会活性化のための具体策」は次項のとおり。

◦指摘された具体策立案に先立って「区会会員向けアンケート」「全区会の組織運営体制調査」の即実施を申し合わせた。（4項参照）

（4）第4回推進委員会（9月18日）

◦前委員会で申しあわせた「区会会員向けアンケート」を集中審議し、アンケート質問表を立案した。併せて各区会長から提出のあった「区会組織運営体制調査票」を全区会分セットにして全区会に配布、区会運営の参考に供した。

2. 区会運営の問題点と課題（まとめ）

第1回～第2回の推進会議で出た区会運営の問題点と課題は次のとおりです。

（1）高齢化が進み、最近 KSC 卒業生の新規入会者や区会活動参加者が少なくなった。

高齢者がリタイヤーする一方、新人の入会者が少なくなった。

高齢化が進み、最近の新しい10期～13期生の区会活動参加が少ない。

（2）わに入会しているが区会で活動する人が少ない。

区会活動に関心がなく、専ら部会活動に熱心な人が多い。（現役時代からボランティア活動に取り組んでいるが、区会では活動しない人が多い。）

区会に魅力を感じない人が多い。区会に出ると役を押し付けられるという警戒心あり。

区会でボランティアしようという人が少ない。（地域密着敬遠者が多い。しかし親睦交流行事には参加する人はいる。）

（次ページに続く）

[目次のページへ](#)

[次のページへ](#)

(前ページから続く)

(3) 区会の組織化が進んでいない。

運営体制(後継者対策、運営ノウハウ整備、運営方針提示などの問題)

前任の区会長がワンマン的に活動していて、後継者が育っていない。

運営スタッフが少ないため、きめの細かい運営が難しい。(特定地域で定着しているKSC同窓会では各期ごとに世話役が配備されきめの細かい運営がなされている。)

区会長の引き継ぎが不十分で、運営のノウハウ習得に苦労する。

組織運営上、最低必要なノウハウ集、マニュアル、規則といったものが未整備。

区会長に区会運営のビジョン、方針がない。

本部サイドも具体的な方向づけを示していない。(区会自主運営を重視しすぎたり、不介入の態度は考えもの。)

区会員との情報連携

メールアドレスが個人情報保護の壁で把握し難く、緊密な情報連携体制が採れない。

区会の定例会、行事への参加率は平均区会員のせいぜい40%程度。区会員のまとまりが弱い。

(4) 現役ボランティア組織との交流、連携体制が弱い。

現役学生へのグループわPRが更に必要。

ボランティアセンターとの交流、情報連携を密にすべきである。

現役学生の地域交流活動が卒業後わの区会活動に引き継がれる体制づくりが必要。

3. 区会活性化のための具体策(まとめ)

第1回~第2回の推進会議で出た打開策主なものを挙げると以下のとおりです。

(1) 会員への区会活動に関する意識調査。

区会員へ「アンケート調査」を実施、区会へ足が向かない要因、希望するボランティア内容など率直な意見、要望などを再調査し、活性化の手がかりを掴む。

(2) 会員の区会参加率向上策

会員が寄ってくるような仕掛けづくり。区会へ出るのが楽しいという行事を企画する。飲み会、花

見、歩こう会、その他地域主催行事(祭りなど)参加など

(3) 会員相互のコミュニケーション対策

「区会だより」といった情報誌を作り、会員の活動をPRする。

ブロック運営を軌道にのせる。

メールを中心に連絡網を整備、活用する。

(4) 区会運営方針の明確化と運営のノウハウ整備

区会リーダーのリーダーシップ発揮

本部からの「運営の重点方針」提示。(例、小学校を舞台にした「地域ぐるみの学校支援活動」を全区で一斉実施など)

会則(区会運営規則)の整備、各区共有の運営ノウハウ集作成。

(5) 在校生への区会活動PR対策

PRのためには「わに入るとどんなメリットがあるか」整理することが肝要。

地域交流活動を卒業後もわの区会活動で続ける仕組みを確立する。

在校生の「情報誌」にわの区会活動を常時掲載しPRする。

ボランティアセンターやクラブ協議会といった在校生の組織とのパイプをもっと太くする。

「わ」入会即「居住区の区会員」という意識付けを入会時徹底する。



4. 当面の活性化取組みについて

以上一連の具体策実施にあたり、当面下記の施策を最優先で取り組み、活性化に弾みをつけたいと考えています。

(次ページに続く)

（前ページから続く）

「区会活性化アンケート」の実施

◦会員全員対象に「区会活動への参加状況」「わ以外のボランティア活動への協力状況」「新規ボランティア依頼を受けた場合の協力可否と協力できる活動内容」「区会活動への意見と要望」などをアンケートし、活性化のための基本情報を収集する予定です。当情報ぎやらりーに同封の「グループわ会員アンケート」にご協力ください。

「区会の組織運営体制調査」の実施

全区会を対象に区会運営スタッフ（役名、役割、氏名、連絡先）組織運営状況（定例会議開催状況、会員への連絡方法、会員の親睦交流行事、ボランティア活動取組み状況、他団体との交流状況など）を報告してもらい、あるべき区会運営検討の参考資料とする方針です。調査は即実施済みで、全区会が共有すべき「区会運営要領」づくりに活用する予定です。

定されている情報交換を通じて学習支援活動が更に広がることを期待しています。」

（以上ご挨拶要旨、文責学習支援委員会）

（2）神戸市教育委員 首席指導主事 村谷芳行氏の講話

神戸市が県や他都市に先んじて策定した「神戸市教育振興基本計画（教育の中期総合5カ年計画）」をグループわとのつながりに敷衍しながら解説いただきました。

計画では「心豊かにたくましく生きる人間」を育てることを目標としており、そのために「人は人によって人になる」の考え方で社会全体でこどもの未来を応援してゆく、その一端が私たち“わ”にも求められている。これが講話の骨子だったように お聞きしました。

（3）神戸市教育委員会 指導主事 稲垣 健氏の講話

10年前中教審の答申に初めて登場したといわれ
（次ページに続く）

平成 21 年度第 2 回

「学習支援者の集い」開催さる

学習支援委員会

日時：平成 21 年 7 月 21 日（火）13：30～16：00

場所：KSC2F 学習室 1～4

出席者：委員・支援者・支援候補者合計 50 名

来賓：神戸市シルバーカレッジ事務局長 大塚 正氏

神戸市教育委員会指導部指導課

首席指導主事 村谷 芳行氏

同

指導主事 稲垣 健氏

1. 全体会議

井上堅副委員長の司会のもと、参加者全員を対象に市教育委員会来賓各氏による特別講話を中心に、激励や有為な情報提供がありました。

（1）KSC 大塚事務局長ごあいさつ

「わの皆さん方は学習支援に限らず市内各所で巾広い活動を行っていただいております、NPO としての“わ”の知名度が極めて高いことを実感しています。この活動も 5 年目を迎えられており、各校からいろいろな要請が増えてくると思います。出来るだけ要請にお応えいただけたら、我々事務局としても有難いと思っています。これから予

[前のページへ](#)



全体会議



分科会

[次のページへ](#)

(前ページから続く)

る「学校支援ボランティア」という概念の由来、学校支援ボランティアが10年前本格的に叫ばれた背景事情、社会人(わはこれに含まれる)以外の学校支援者である大学生スクールサポーター制度の現状等、「学校支援ボランティア」というテーマを幅広い視点から解説いただきました。

(4) 平成21年度小学校からの支援要請とわの対応状況

中沢委員長から7月21日現在における市内各小学校(特別支援校を含む)からの支援要請とその対応状況につき、第1表のとおり報告がありました。

[第1表]

支援要請校	支援校(支援者数)	未支援校	対応率
51校	37校(延べ87名)	14校	72.5%

7月末現在未支援校とその要請内容は第2表のとおりです。支援には特別な資格は要しません。奮ってチャレンジしてみてください。

[第2表]

区	小学校名(要請内容) (注) は特別支援
東灘区	本山第二()
兵庫区	夢野の丘(算数・国語)
北区	泉台() 長尾()
須磨区	東須磨() 神の谷() 花谷(野菜づくり)
垂水区	塩谷() 多聞南() 千鳥が丘(運針・ミシン・そろばん)
西区	櫻野台() 出合() 東町() 押部谷()

2. グループディスカッション

各グループ毎に真剣な意見交換が行われましたが、各グループにおける主な討議内容は以下のとおりです。

(1) 学習支援候補者グループ

分科会で支援活動者から学習支援の実体験談を聞いたかった。

(2) 特別支援グループ

①支援者を単なる「便利屋さん」と思っている学校と深い感謝の気持ちを持って接してくれる学校とのその落差は大きい。(校長・教頭の支援者に対する態度も学校によって千差万別。)

特別支援をしていく中で対児童、対先生、対学校について悩みが多く、その都度相談する相手が欲しい。ハケ口がほしい。

(3) 教科の補助担当グループ

①戦争体験を聞いたがるこどもが増えているが、その背景にはまだまだ戦争遂行に蓋をしたがる我が国特有の国民意識が根強いことに留意すべきである。

②支援校ごとに学期初めには担任を交えた懇談の場を要望したい。

③学習支援は社会的に有為であり、永続させるべき事業につき、最低限の出費(交通費実費)は補償されて然るべきである。

④学習支援が果たしている活動領域や貢献内容をもっと市当局にPRすべきである

(4) 登録しているが活動していないグループ

①過年度の活動紹介

北区の某小学校で図書室整理や図書の読み聞かせを3年間担当。その間学校との打合せなし。

木津小で算数を中心に国語、図工、音楽、体育の授業補助やなかよし学級を過去5年間担当してきた。

垂水区の福田小のなかよし学級で、地域の史跡、文化財紹介の学習を担当した。

②登録済みなるも未稼働の理由

3カ年活動してきたが、今年小学校から連絡なし。(事前に本人にも連絡なし。あれば応ずる意思あり。)

英語の支援活動志望。東落合小に2学期から行くことに決定。

多くのボランティアをやっているため、特定曜日の継続支援は無理。総合学習のゲストティチャのようなスポット対応なら可。

③小学校側の受入態勢上指摘された問題

支援者の位置付けが学校内で不明確且つPR不足。

(次ページに続く)

（前ページから続く）

支援者と学校側・担任間のコミュニケーション不足。

校長・教頭の無関心。

教師（出張中）の代行など“学習補助の域”を超える支援要請。

英語学習支援の取組み

神林 幹夫（国際 5期）

グループわの小学校学習支援に新しく英語学習が加わりました。文科省の方針のもと神戸市教育委員会が具体的に動き、イングリッシュサポーター制度を発足させました。

教委がネイティブスピーカー、近隣大学の語学関係学部学生を募るほか、グループわにも協力を求めてきたのです。

支援委員会ではこのほど英語学習支援グループを立ち上げ、これに応ずることとなりました。

この10月から希望小学校5校、わの支援委員7名で滑り出したばかりで実績など報告できる段階ではありませんが、活動を充実させるためサポート可能な登録会員を求めています。

英語を教え込むということだけでなく、英語に慣れ親しむ活動を支援しようということです。学校現場では戸惑いも多いようですが、先生を助け一緒に考えていく喜びもあるかもしれません。勿論英語教員資格など必要ありません。

支援グループの研鑽集会を持ち、互いの経験を語り合いながら、より良いサポーターを目指したいものです。

やってみようという方、わの事務所までご連絡くださるようお願いいたします。

戦争体験語り部活動大繁盛！

濱岡 吉孝（福祉 4期）

終戦から年月が流れて久しい。日本人は戦争で自身が受け、そして他に与えた筆舌に尽かせないような痛手を忘却の彼方に置き去り、平和を謳歌し、平和の有難さに無感覚になっている。

私たち（昔あそび研究会）戦争体験者は「子や孫

の代に戦争がもたらす非情さ、悲惨さを語り継ぐ必要があるのではないか。神戸市民が直接痛烈に受難した“神戸大空襲”のことを語り継ごう」と話し合い、語れるその時を待っていた。そんな折、平成13年に神戸市立星和台小学校6年生、社会科の授業「戦争と平和を考える学習」で戦争体験者の体験談を聞きたいという要請を受けた。早速、「神戸大空襲」の話をしたところ、極めて好評で、以後8年間時期がくるとこのテーマを同校で語り継いできた。

平成17年“わ”の本部事業の一つとして子どもたちの学習支援活動が立ちあげられ、学習支援委員会の活動が始まった。この委員会によって神戸市教育委員会や神戸市小学校校長会で「語り部活動」が紹介され、平成20年度には星和台小を含め雲雀が丘小、渦が森小、若草小の4校に、平成21年度にはこの4校に道場小、宮本小、竹の台小が加わり7校となった。右肩上がりの要請増加を嬉しく受け止めるとともに今更ながら学習支援委員会の影響力の大きさを痛感している。

実施校では私たちが語っている間、子どもたちがどの子も食い入るような眼差しで聞いてくれているのが心に強く残っている。そして何よりも感銘を受けたことは担任の先生から「私たちも子ども達と同様戦争を知らない世代です。神戸大空襲の体験談をお聞きして、戦争がもたらす非情さ、悲惨さに心をゆさぶられました。これからは私たちが語り部となって平和の有難さを子らに伝えていきたい。」という主旨の言葉をお聞きしたことである。

これからも“わ”の学習支援委員会の援助、協力を得ながら、語り部も研鑽を重ね、より正確にわかり易い語りを続けたいと考えている。

第3回「学習支援者の集い」開催案内
 日時：平成21年11月27日（金）
 13：30～16：30
 場所：シルバーカレッジ 2F 5-6 学習室
 議題：(1) グループディスカッション（成功例の紹介や課題解決のための話し合い）
 (2) その他情報交換・連絡
 学習支援活動には、特別な資格は不要です。
 在校生、一般の方の参加を歓迎します。興味ある方はぜひ覗いてください。

秋晴れの中、「わいわいストリート」が盛況のうちに開催される。

理事(事業部担当)道満俊徳(生環 13期)

10月11日(日)「天高く馬肥ゆる」の形容がピッタリの秋晴れの下、しあわせの村・芝生広場に、約600名の参加者が集い、「わいわいストリート」が盛大に開催された。

この種の親子連れ対象のイベントが、春と夏に2度企画されたが、いずれも雨にたたられ、中止の憂き目を味わった。今回ばかりは絶好の秋日和で、しあわせの村に家族連れで行楽に来られた多くの市民の目にとまり、昔遊び、コマ回し、竹馬、輪投げなどと物珍しさも手伝って、多くの方々に参加していただいた。

「わいわいストリート」は、今はシルバー世代の人たちが子どものときに、普段の遊びの中で楽しんだ“昔遊び”、“木工工作”、“凧づくり”などを、今の世代の親子に伝え、一緒に体験して頂き、物資の豊かではなかった時代に、こんなに多くの楽しい遊びがおこなわれていたということを知り、試す・作る”こと”によって、創造性豊かな情緒教育の一環とし、三世代交流も図るという趣旨のイベントである。

実施を担当して頂いた各部会の方々には、日ごろの力量(スキル)を大いに発揮して頂き、閉会前には事前に準備していた全ての工作材料がなくなってしまうほどの盛会であった。

種々の工作や遊びなどは以下の内容であった。

昔遊び(10種目)

折染め工作・紙ひこうき・紙トンボ・お手玉・けん玉・コマ回し・ぶんぶんこま・折り紙・はねかえる、竹馬

木工工作

動物風船&皿回し遊び

グルーンプラ凧作り

輪投げ遊び

どのイベントも若い親子共々、未経験者が多く嬉々として楽しまれていた。昔遊びを始め、種々の遊びが全てエコに繋がる創造性豊かなイベントとの認識も自然に伝わったように思う。多少残念だった

のは、参加者が昨年の2倍近くに達したため、準備していた材料が午後には品切れになってしまうという有様で、ある種の嬉しい悲鳴だった。

イベントを振り返って

天候に左右される野外イベント難しさを改めて痛感した。

昨年と同様の活動内容であるが、内容は年々、質的に向上している。

好天で参加者が予想外に多かったので、準備していた、全ての諸工作物が、2時には無くなってしまった。準備する量の見積り精度を上げることは、次回開催時の課題である。

開催時間11時~15時であったが工作物が無くなったときの対策として、繰り返しゲームを出来る・竹馬・輪投げ、コマ回し、皿回しなどの種類を増やすべきだった。

イベント担当者はジャンパー、帽子などユニフォームは統一したほうが良かった。

総評

予定されていた参加者はもとより、イベントのあることを知らないで、参加された方々にも十分に満足をして頂いた。各担当部署の方々には、ホスピタリティの精神を十分に発揮して頂きました。

次回、さらには次々回と、一層の質的アップを図り、新規企画も取り入れるなどして、より顧客満足度を高めていきたい。



風船細工



コマ回し

ボランティアの心

詫摩信俊さん(国際 4期)高木稔雄さん(国際 10期)が KSC 情報誌に投稿、掲載されたものをご披露します。

お習字を通じて広がる輪！

詫摩 信俊(国際 4期)



平成9年入学時、クラブ活動を物色中、40年以上も筆硯に親しんできたせいで、自ずと書道部に興味をもち暫く練習風景を見ていたら、役員と思しき怖そうなおばさんに「あんた、ぼーとしてないで早よう先生の処に行ってお手本を書いて貰いなさい」と言われたのが入部のきっかけ。その年の学園祭に初出展、以降師範という役を仰せつかって書道部の指導に関わることとなり、そもそもこれが私の習字ボランティア活動元年です。

卒業後、いなみ野学園文化学科に入学、4年間「奥の細道」などで遊びながら書道部の指導も継続。部員相互の和を第一義に、書美の追求と技術の向上を目指し楽しいクラブ活動の推進に心がけ11年が過ぎました。その間わや区社協の紹介による老健や特養などの習字教室が16施設となり、うち6箇所を担当。各教室では「花」「海」「桜」や「八重山吹」「天龍下り」など、季節に合った手本を製作し、機能訓練を主目的として丁寧に指導しています。

「長いこと筆なんかもったことないから「手がふるえて書けんよ」「耳が遠いので聞こえないよ」「あっそれは漢字検定不合格よ」など楽しい会話を通して自ずと大切な信頼と友好の輪が広がっています。毎年秋に開催の書道部展覧会には、各人のユーモアに満ちた作品の全てを展示し、楽しい鑑賞会がもたれます。「おばーちゃん、これ書いたのー」「すごーい」など、家族との微笑ましいふれ合いの場が見られ共に感激一涙です。

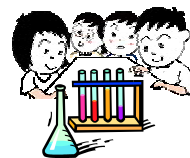
近年、市民福祉振興協会主催の高齢者健康教室趣味講座や、神戸国際コンベンション協会主催の国際会議で来日の海外賓客に対する日本伝統文化紹介キャンペーンも多彩で、国際部会の協力を得て書芸の紹介に努めています。今年も10月に相楽園でイベントを開催予定です。

経済的にも時間的にも余裕のある高齢者にとって、地域社会は個々の役割発揮の可能性が豊富にある場です。ボランティア活動を通じて世代を超えた仲間との協働により、生活圏を更に広げ一層充実した生きがい感を達成したいものです。



子どもたちに感謝され、 自分も楽しくボランティア

高木 稔雄(国際 10期)



カレッジ生の頃は少し距離を置いていたボランティア。卒業後、「わ」に入りボランティア活動に参加してみて自分が結構楽しんでいるのに気がついた。今は「わ」のボランティア活動、そして「わ」を通じて紹介された「理科支援員(サイエンスアシスタント)」、「わ」とは別のNPOの活動への参加と活動範囲が広がり忙しく充実した毎日を送っている。ここ二年ほど続けている理科支援員のことを少し述べたい。

最近の子どもたちの理科離れの一因に小学校の先生方が日頃忙しく、理科実験の準備等に十分な時間をかけられないこともあると考えられている。理科支援員は、そういう状況の解消のため、全国の小学校を対象に文科省が予算をつけて設置しているものである。

業務は、朝、学校で鍵をもらって理科室を開け、その日の理科実験の準備を行なうことから始まる。薬品の調合、実験器材の準備。時には事前に、家で教科書を参考に実験のことをあれこれ思いめぐらしながらパソコンに向かって生徒向けの資料を作ったりする。これらは技術者としてあまり縁のなかった分野であるが、これが結構楽しい。実験に入るとテーブルの間を縫って生徒たちの実験を見て回る。危険なことをすれば注意する。行き詰っていれば助言する。子どもたちがなるほどと理解する笑顔をみるとうれしい。これらの一連の作業は、先生方に非常に感謝されている。昨年度は、5年生から実験最後の日に感謝の言葉の数々をもらった。「苦手だった理科が好きになった」とか「また来てください」などと書かれると満更でもない。

ボランティアは自分が楽しく、無理をしないことで気分的な余裕ができ充実感も得られ、そして相手への思いやりが生まれ感謝される。“ボランティア”と構えず力まず、初めの第一歩を踏み出せば、次々と見えてきて気持ちも前向きになってくるものと思う。あと三年、微力ながら子どもたちの理科離れ阻止に貢献できるように頑張りたい。そして子どもたちとの出会いを楽しみに心身とも健康でありたいと思う。



写真 = 理科実験

中央区会

ボランティアを通じて考える問題

中央区会長(生環 9)元田 弘忠

ボランティア活動から思う事を述べる。シルバーカレッジ書道部に入会し、書の向上、また友との交流の場として活動する一方、書道部のOBの会員中心に市内の老人介護施設等の書道ボランティア活動が実施されており、私もOBとなった年度から某老人介護施設の書道ボランティア活動をする事になり、それを機にグループわにも入会の上、中央区会に出席し、中央区会のボランティア活動もするようになり現在に至っております。

書道の指導、支援や介護補助、イベントその他のボランティア活動も経験し5年間位になりますが、特に介護施設で感じ、考えさせられる事を何点か挙げてみたいと思います、私見でありますので支障があるようでしたらご容赦下さい。

(1) 老人ホーム入居について

本人の入居希望か家族等の勧めか、健康状態にも左右されるだろうが本人の希望が多いとは思えない、人間誰しも自宅がよいと思うので家族等の勧めが多いものと推測される。

(2) デイサービス・ショートステイについて
短期間の介護や一日の介護サービスは1日を楽しく過ごし、友達も出来るので良い制度である、将来私もこの制度は利用しても良いと思う、しかし、希望者が多く簡単にはいかないようである。

(3) 入居者の健康管理

施設の介護方針に基き、入居者の健康管理がなされているので入居者本人の意思による体の運動時間は少ないものと察する、それにより足腰が弱くなり車椅子の生活が多くなるように思う、安全管理面から行動範囲は狭少であるが足腰強化面上、散歩等による運動の増進を図る必要がある。

(4) 入居者の心境

入居者の方はデイサービスの方々に比べて話し合いが少ない、入居当初はよく話されていた人も話題が少なくなるのか、無口な人が多くなる。入居生活に馴れるに従い物に対する関心が薄らいでくるのではないか、この対処には物事に関心を示すように導き支援をする事が良いと思う。

(5) 入居者の趣味

介護施設入居者やデイサービスの方々が趣味とリハビリを兼ねて、書道・絵画・カラオケ等をしている時は元気になる人が多い。

特に、一人では書や絵を描いたり、歌唱をする事も少ないが集団生活になると人は競争意識を掻き立てられ、活気付くのである、これらの事を媒体として明日への希望をもたせる必要がある。

* 提言

国、県、市町村、また、民間企業においても老人介護施設の増設やあるべき姿を検討しているようであるが、心のケアの充実を図る事を今以上に配慮すべきである。

現在、国民の貧富の格差が大きくセレブの方々は、ホテル並みのケア付きマンション等いろいろな面で恵まれているが、それに比べ特養、軽費老人施設等は相当の開きがあり良い境遇とは言いがたい、今後の課題も山積みしており有意義な老後とはどんなものなのか、老後を老人ホームでとは考えたくない今日この頃である。

皆さん！ グループ“わ”ホームページをご覧くださいませ！

特定非営利活動法人社会還元センターグループわ
2020-10-03 (木)

HOME 活動紹介 イベント 会報 募集 ガループわ 会長ページ サイトマップ

GROUP "WA"

GALLERY

イベント開催予定

1. 日本文化を知ってもらおう
日 時 平成21年10月11日(祝)11時30分～14時30分
開催場所 フルーツプラザパーク イベント広場
趣 旨 グループわ文化祭の各グループが日本文化の良さを知ってもらおう活動の一環
主な内容 大正琴、鼓太鼓、尺八、語り、手話コース、朗読、紙芝居、合唱、音楽演奏など

空か敷子 夢道か

ホームページには、区会、部会の活動紹介、毎月の各区、各部会の活動記録、イベントの参加募集情報、[会報]情報ぎやらりーカラー版など、また会員のホームページ紹介、「みてみて私の写真・絵画・趣味」等盛りだくさんの記事が満載されています。最近までは記事、内容の修正、加筆が滞り、面白くないとの声もお聞きします。皆さんのボランティア活動の情報交換の場ですので、どんどんご寄稿・ご意見・ご批判を頂き、グループ“わ”の発展に貢献いたしたい。

インターネット・ブラウザを起動し、URL(インターネット上のアドレス) <http://www.wa-net.jp> を入力するか、検索欄に「NPO 法人社会還元センターグループわ」と入力し検索(神戸市シルバーカレッジのホームページからも呼び出せます)して下さい。たくさんの方からの感想をお寄せ頂きたい。(編集部 HM)

福祉部会

ご協力を頂きありがとうございます。
「第39回こうべ子どもの未来応援バザー」
 にご支援を頂きお礼を申し上げます。
 福祉部会長 横井幸雄(福祉 11期)

毎年恒例の標記のバザーが10月16日、17日に開催されます。この準備のために6日間が必要でグループわの会員の方々にボランティアの協力をお願いしました。(前回の情報誌配布時にチラシを同封しました)

9月25日現在で45人の方で、延べ人数120人の方の協力を頂くことになりました。誠にありがとうございます。

中には8日間全てに協力を頂ける方もおられて頭が下がる思いです。また、毎年参加して頂いている方々もあり、感謝の気持ちで一杯です。

主催は(財)ひょうご子どもと家庭福祉財団ですが昨年の協力個人数は329人、団体数は150団体で、物品の寄贈、バザーの開催と準備、場所の提供、など多岐にわたっています。

福祉部会が担当となって2年目となりますが、昨年の開催で多くの体験をしました。

バザーのプロのような方がいて、高価な品物を手っ取り早く集めて人目のつかない所で、値札を変えるような行為が見られました。

-00 バザーは皆さんの善意によるイベントなので、善意が無駄にならないように監視の目を光らせましたが不快感を味わいました。

主催元には意見を伝えて、より良いバザーになる事を目指して、皆さんのご好意に応えたいと思います。ありがとうございました。



搬入された寄贈品の仕分け作業

季節の草花 18

クズ

久保 知彦(生環 8期)

全土の日当たりの良い山野、野原、荒地日本に群生するつる性の大型の多年草で繁殖力が旺盛で、あっという間に樹木などを覆ってしまい、枯れさせてしまうクズは、マメ科の植物です。

つる性の茎は太く毛が密生しており大きい葉をつけています。太い根は葛粉や葛根湯の原料として、牛馬を飼育していた頃は優秀な飼料でありそのつるは薪の結束にも使われた利用価値のある植物でしたが、今では厄介者になってしまいました。

万葉集には、山上憶良の歌として

「秋の野に 咲きたる花を 指折り(おゆびおり) かき数ふれば 7種(ななくさ)の花

萩の花 尾花葛花 撫子の花

女郎花 また藤袴 朝貌(あさがお)の花」

とあるように、秋の七草の一つです。春の七草と違ってどちらかといえば「見る」花のようです。

外来の植物が、日本で多くの害を及ぼしているものも多いのですが、このクズはアメリカなどに持ちこまれた結果、おおきな被害をもたらしているようで皮肉なことです。



環境部会

環境部会長 菅田 忠志(生環 11期)

子どもたちへ贈る夏休みイベント 3題をサポート

環境自然塾 『押し葉標本づくり教室』

8月9日(日)、本部主催、(財)長寿社会開発センター後援の『押し葉標本づくり教室』が開催された。

当日はあいにくの小雨混じりの天候となったものの、予定の参加者は一部の方を除きつぎと参集。植物採集及び押し葉標本づくりの基礎的な話を聞いてから、しあわせの村内の身近な植物の採集に向かう。時期的には、植物の種類も若干少ない時であったが、参加された親子の手によって、午前中に集められたいろいろな草花を、午後から「押し葉づくり」に挑戦。

押し葉標本は、できあがるまでには多くの工程と日数を要するため、1日限りのイベントでは、出来る項目も限られる。そのため、持ち帰り後の作業をしっかり覚えて帰ってもらうこととした。

“ビオトープグループ”と“里山クラブ” がサポート



参加された親子には、経験豊かなスタッフに準備してもらった見本と、未完成ではあるが自分達で作った作品をおみやげに、それぞれ達成感を笑顔で表しながら引き上げていった。このようなイベントを通じて、身近な自然への関心が育ち、自然を大切にすることが育つことを期待しよう。

子どもたちみんなで盛り上げた

『しあわせの村夏休み工作塾』

夏休みもあと数日となった8月29日(土) しあわせの村主催の「しあわせの村夏休み工作塾」が開催された。6つのテーマが準備され、その内「ケナフ染め」と「昆虫採集と標本づくり」のコーナーを環境部会の「ケナフの会」「ビオトープの会」「里山クラブ」のメンバーがサポートにあたった。

昆虫採集と標本づくり

ケナフ染め

“ケナフの会” “ビオトープグループ”

“里山クラブ”もサポートに参加



夏休み最後の休日とあって、大勢のちびっ子たちが親子で参加して来られ、ケナフの木の皮を使って布に染める作業や、教材として採集した昆虫を、講師の先生の指導でケースに収納していくなど、楽しいひとときを過ごしたイベントとなった。

こうべ環境未来館 第7回、第8回 エコスクールサポート

第7回：夏休み宿題お助け隊

8月23日(日)、今年も多くの子どもたちが訪れてくれた。木の実工作やマイバック作りに挑戦する子、昔あそびや草木染めに興ずる子、ペットボトルや牛乳パックを活用してのリサイクル学習など、文化部会のみなさんと一緒に、里山クラブ、ビオトープの会、銀の匙がサポートにあたった。

第8回：バードウォッチングと野草クッキング

9月12日(土) こうべ環境未来館周辺で実施されたバードウォッチングと野草クッキング。季節的にやゝ不利なこともあって、野鳥の観賞や野草の採集にはちょっと種類が少なく、手持ち無沙汰となったが、未来館スタッフと一緒に野鳥と自然の観察会、ビオトープの会、銀の匙の皆さんにサポート願ひ初秋の里山を味わってもらった。



調理に腕をふるってもらった“銀の匙”スタッフのみなさん

初の宿泊型イベント無事終了

『この指とまれ 子どもわくわく宿泊自然体験ひろば』と銘打って、環境部会初の宿泊型イベントをしあわせの村テントキャンプ場で10月2日～3日に開催した。「里山の实地学習」「食事作り、バームクーヘン作りから学ぶ食育と異年齢間の共同作業」「天体の話と天体観測」「秋の夜道の虫の音観賞」「ピオトープのザリガニ釣り（駆除）」と、盛りだくさんのメニューを子どもたちと共に楽しんだ2日間となった。

前日まで危ぶまれたお天気模様も、子どもたちの“てるてる坊主”に伝えてくれた「おてんとさん」。秋晴れの幕開けとなっ



てスタートさせた。さあ受け入れ準備も整った

1日目は、村内の自然林に整備されている「自然の道」で、思い思い時間をかけてどんぐりや木の実・木の葉集めをし、2日目の工作材料に備える。



かまきりゲットしたよ～

参加してきた3歳から11歳までの子どもたちも、年齢差を越えてすぐに親しく友だちとなっていた。



どんぐり拾いに出かけよう



子どもたちも手伝ってかまどで炊いた飯ごうごはん おいしい～



中秋の名月となった今回の天体観測。キャンプファイヤーを始めた頃に少しぱらぱらと降ってきたがすぐに止み、雲間から顔を覗かせる満月を、天体観測用望遠鏡で観察できた。講師の井垣 隆夫先生（国際5期）の熱心な天体の話に、質問が飛び交い少々時間もオーバー。

その後は、暗い夜道を「星空ひろば」へ移動。



キャンプファイヤーでは風船わりゲームも楽しんだ

静かに耳を澄ませ、秋の虫の音を観賞しながら、虫たちも地球の仲間であることや、里山の話、森の恵みの話を聞かせる。「日本は四季があり、豊かな緑に覆われている。このような国は世界でもそう多くはないこと」「森を大切に守っているのは、森を持っている田舎の人ばかりではなく、漁師も海の魚を育てるために森を守り、このことが海の魚を豊かにしていること」などの話をし、自然の大切さ、自然を観察し自然に関心を持つことの意義を伝えた。



天体望遠鏡で中秋の名月を観測

2日目。やはり朝方の冷え込みは予想以上に強かったがこれも体験。みんな元気に朝のラジオ体操でスタート。朝食・後片付けを済ませ、前日集めてきた木の実、木の葉などを使って思い思いのネイチャークラフト工作を行う。はじめは思案顔だった子どもたちも、やがてなかなか柔らかい発想でユニークな作品がつつぎと生まれていった。

昼の「カートンドックとバームクーヘンづくり」には、全員でかかり昼食とする。なかなかの人気アイテムだ。その後は、自分たちの作品紹介や、ピオトープでのザリガニ釣り（駆除作業）に出かけ、盛りだくさんだったプログラムも終了。午後3時に解散、終了とした。

今回初めて試みた「宿泊型イベント」であったが、怪我もなく、大きなトラブルもなく終えられ、子どもたちも常に、にこ行動してくれていたことが、今後につながる最大の成果だったように思っている。

スタッフのみなさんお疲れさまでした。



ピオトープでのザリガニ釣り

しあわせの村ホテルにケナフ菜展示

ケナフの会 (生9)長谷川 博

ご覧になりましたか？

しあわせの村ホテルロビーのコーヒーショップの前で、「ケナフ菜」の展示をしています。

神戸市保健福祉局のユニバーサルデザイン課主催の「こどもUD教室」の勉強会が8月4日、5日と実施されました。4日しあわせの村見学时に「車いす乗車体験」「ケナフで菜作り」があり、当ケナフの会が協力しました。当日神戸市内小学校3年～6年の応募し、抽選で選ばれた子供たち60人弱と、ボランティアのスタッフ、市役所の担当者が来村、「ケナフで菜作り」は僅か1時間(2組に分けましたので1組は30分です)で制作し、乾燥のアイロン掛けは彼等がしあわせの村を出発した後まで続き、残っていた市役所担当者に渡しました。



感想文の中で「温暖化防止にケナフが役立つ」「物を大切に使う」等の言葉がみられ、短時間の中で理解が少しは得られたかなとの思いです。

子供たちが制作した2枚の菜の内1枚が展示されています。子供たちが単に作った菜ではありません。ユニバーサルデザイン(UD)を身近に感じ、自らが考えてもらう、との学習の場での「ケナフ菜」の制作で生まれた菜です。ぜひご観賞下さい。



【11月～1月のイベントのおしらせ】

『秋の森林浴を楽しむ』

開催日：11月4日(水)

場所：六甲再度公園

コース：新神戸駅前～布引の滝～布引貯水池～市が原～(再度東谷)～再度公園～しょうじょう池～(大師道)～諏訪山公園(約8km)

集合場所・時間：新神戸駅前(9時20分)

(出発：9時30分、解散：16時10分予定)

定員：30名(申し込み先着順)

申込み方法：FAX か八ガキに参加者全員の氏名・年齢・〒・住所・電話番号を記入の上 お申込みください。

宛先：〒651-1102 神戸市北区しあわせの村 神戸市シルバーカレッジ内 グループわ 森の仲間係

FAX 078-743-3830

タイトル	開催日	開催場所	担当部会
バードウォッチング	11月8日(日)	しあわせの村	環境部会
果樹園を探検して、リースづくりをしよう	11月8日(日)	フルーツフラワーパーク	いきがい部会
飛び出せエコスクール	11月8日(日)	ファッション美術館	こうべ環境未来館
一ノ谷プラザ利用者の発表祭	11月15日(日)	須磨一ノ谷プラザ	本部
健康ハイキング	11月29日(日)	須磨一ノ谷プラザ	本部
折り紙でクリスマス・お正月を飾ろう	12月13日(日)	フルーツフラワーパーク	
むかしのあそびを楽しもう会	1月(未定)	丈の台小学校	文化部会
和風を作って須磨海岸で凧あげをしよう	1月24日(日)	須磨一ノ谷プラザ	文化部会

編集後記

シルバーカレッジの学園祭も盛況のうちに終わり、秋もどんとと深まり、年間計画のスケジュール消化も、はや半分を過ぎてしまった。秋という季節が区会も、部会も一番スケジュールの多い季節だと思うので、その成果を数多く「情報ぎやらりー」に投稿していただきたい。シルバーカレッジの情報誌では、個人の投稿が沢山あるが、わの情報誌になると極端に少なくなる。何故だろう? 「情報ぎやらりー」は会員全体のコミュニケーションの場であるので、個々人のボランティア活動の内容を他の人に紹介しあうことにより、より広くボランティアの輪を広げて行く、一助にしたいものである。

編集担当 今田 紘